

科目名	コンピュータシステム I B							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	北島 仁宇			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジー系の基礎となる情報の基礎理論やハードウェア・ソフトウェア及びストラテジ系、マネジメント系の知識を学ぶ。基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を図る。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					情報処理の基礎理論及びハードウェア・ソフトウェアの用語を説明できる		
	○					ストラテジ/マネジメント分野の用語について説明できる		
	○	○				表や文章に書かれている情報を元に計算式を導き出すことができる		
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキスト I【ベーステクノロジー編】(TAC) 基本情報処理技術者 試験対策テキスト III【マネジメントと戦略編】(TAC) 基本情報技術者午後問題集(麻生情報ビジネス専門学校)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1 2	HW/SW 温度モニタ/プロセスの排他制御						
	3	PM プロジェクトの要員計画						
	4 5	HW/SW 浮動小数点/字句解析、構文解析、言語処理系						
	6	PM EVM						
	7 8	HW/SW 機械語命令/コンパイラ(最適化)						
	9	ST 正味現在価値						
	10 11	HW/SW ソフトウェア品質特性/マルチメディア技術				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと		
	12	ST 市場分析と需要予測(ST)						
	13 14	HW/SW タスク管理/電子回路・論理演算				模擬試験で正解できなかった箇所をまとめてくること		
	15	PM コミュニケーション計画						
	16 17	HW/SW プログラムの並列実行/仮想記憶方式				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと		
	18	PM 調達先選定						
	評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		模擬試験	◎	◎				60%
課題レポート		◎	◎		○		30%	
受講状況					◎		10%	
履修上の注意								

科目名	コンピュータシステムⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	小淵 洋子 高倉 美哉		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジー系の基礎となるデータベース、システム開発、ネットワーク/セキュリティ分野に関する知識を学ぶ。各分野の技術や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して習熟を図る。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				データモデルや正規化の知識を元にデータベース設計ができる	
	○	○				要求されるデータの選択や表の定義を行うSQL文を記述できる	
	○	○				プログラム設計書やテスト設計書を読み、ソフトウェア設計要件と照合できる	
	○	○				ネットワークでのデータ伝送に使われるプロトコルについて説明できる	
	○	○				ネットワークでの暗号化手法、コンピュータウイルスの種類や対策方法について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】(TAC) 基本情報技術者午後問題集(麻生情報ビジネス専門学校)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	DB設計復習(E-R図、正規化)					
	2	SQL復習(条件選択、グループ化、副問合せ)					
	3	NW/SC問題演習および関連技術の復習(1)					
	4	DB問題演習(副問合せ、グループ化、正規化、設計、副問合せ)				授業で配布する演習問題を解いておくこと	
	5						
	6	NW/SC問題演習および関連技術の復習(2)					
	7	DB問題演習(正規化、高度な副問合せ、ビュー、相関副問合せ)					
	8						
	9	NW/SC問題演習および関連技術の復習(3)					
	10	DB問題演習(制約、JOIN結合、データベース運用・管理)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと	
	11						
	12	NW/SC問題演習および関連技術の復習(4)					
	13	システム開発(UML、テスト技法)				模擬試験で正解できなかった箇所をまとめてくること	
	14						
	15	NW/SC問題演習および関連技術の復習(5)					
	16	システム開発(ファイル処理、総合演習)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと	
	17						
18	NW/SC問題演習および関連技術の復習(6)						
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	コンピュータシステムⅢB						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	72時間	担当者	北島 仁宇		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、アルゴリズム分野及びプログラム開発(表計算)分野に関する知識を学ぶ。に関する知識を学ぶ。初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。プログラミングにつながるトレースカも身につける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				表計算分野で出題される関数の仕様を理解し、活用することができる	
	○	○				表計算分野においてマクロによるセルの参照を理解し、トレースすることができる	
	○	○				擬似言語の表記方法を理解し、動きを説明することができる	
	○	○				基本的なアルゴリズムを理解し、仕組みを説明することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 基本情報技術者 午後問題集 アルゴリズム、表計算(麻生情報ビジネス専門学校) 基本情報技術者試験の表計算問題がちゃんと解ける本(翔泳社) アルゴリズムとデータ構造(ウィネット) 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~3	表計算21年秋~23年特別(マクロなし)					
	4~6	表計算23年秋~24年秋					
	7~9	表計算24年春~25年春					
	10~12	表計算25年秋~26年秋					
	12~15	表計算27年春~28年春					
	16~18	表計算28年秋~29年秋					
	19~21	基本アルゴリズム(ソート)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと	
	22~24	アルゴリズム(文字列操作)					
	25~27	アルゴリズム(経路・距離)				模擬試験で正解できなかった箇所をまとめてくること	
	28~30	アルゴリズム(業務要件)					
	31~33	アルゴリズム(数値)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと	
	34~36	アルゴリズム(その他)					
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	ネットワーク I							
科目名(英)								
単位数	3単位	時間数	54時間	担当者	高倉 美哉			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	現在、標準的に使われているTCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学ぶ。 またシミュレーションソフトを使用して、データの転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて 理解する。							
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる		
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる		
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる		
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる		
テキスト・教材 参考図書	ゼロからわかるネットワーク超入門(技術評論社)							
授業計画	回数						授業外学修指示	
	1- 3	・インターネット通信、pingコマンドの使い方 ・IPアドレス						
	4- 6	・IPアドレス					小テストの準備として、IPアドレスの 計算練習を行うこと	
	7- 9	・ルーティング						
	10- 12	・パケットによるデータ分割 ・TCPとUDP						
	13- 15	・ICMPとping ・プロトコル						
	16- 18	・プロトコル					小テストの準備として、プロトコルの特徴 などについて復習を行うこと	
	19- 21	・OSI基本参照モデル						
	22- 24	・ネットワークインタフェース層の役割					総復習に向けて、不明点を質問できるよう まとめておくこと	
	25- 27	・総復習						
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)課題・レポートを3回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(筆記)	◎	○				60%	
	小テスト	◎	◎				20%	
	課題・レポート				○		20%	
履修上の注意								

科目名	制御ソフト I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	高橋 政博		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において プログラマーとして勤務		
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	制御ソフト(組み込みシステム)の概要について学習する。 実機を使用して、実際に制御プログラムを作成し、実習形式で制御ソフト(組み込みシステム)を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					組み込みシステムとは何で、どこで使用されるものか説明できる	
		○	○			組み込みシステム開発ツールを使用し、制御プログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・絵で見る組み込みシステム入門 一般社団法人組み込みシステム技術協会 編・著(電波新聞社) ・ロボットと情報技術 実習-教育版EV3ソフトウェア(株式会社アフレル) ・レゴマインドストームEV3 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	組み込みシステムの世界				身の回りの組み込みシステムを調べる	
	2	組み込みシステムの仕組み					
	3	ハードウェア技術①【マイコン】					
	4	ハードウェア技術②【入出力・LSI】					
	5	ソフトウェア技術①【リアルタイムOS】				WindowsOSとリアルタイムOSの違いを調べる	
	6	ソフトウェア技術②【ミドルウェア】					
	7	ソフトウェア技術③【企画から製品化】					
	8	組み込みシステム開発手法					
	9	組み込みシステムの未来					
	10	制御ソフト開発①【EV3でのプログラミングとは】				各種センサが使用されている組み込みシステムを調べる	
	11~ 12	制御ソフト開発②【カラーセンサを使ったライトレース】					
	13~ 14	制御ソフト開発③【タッチセンサを使ったスタート&ストップ】					
15~ 16	制御ソフト開発④【ソナーセンサを使った衝突回避】						
17~ 18	制御ソフト開発⑤【ジャイロセンサを使った姿勢制御】						
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)プログラム開発課題を課す。(4)受講状況 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	レポート提出状況	◎	◎		○		20%
	プログラム開発演習		◎	○	○		20%
受講状況				◎		10%	
履修上の注意							

科目名	コンピュータオペレーション演習B							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	高倉 美哉			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	企業内サーバとして構築されるLinuxについて、基本的な操作方法、役割などを学ぶ。また演習を通してLinuxの基本操作、さまざまな管理機能について理解する。							
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				Linuxの概念や役割を説明できる		
		○				Linuxの基本コマンド操作、viエディタによるファイル編集を行うことができる		
		○				Linuxサーバにてユーザ管理、ネットワーク管理を行うことができる		
		○				Linuxサーバにおけるプロセス管理、ファイル管理を行うことができる		
テキスト・教材 参考図書	Linux標準教科書(LPI-Japan)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1・2	Linuxとは(UNIX, Linuxの特徴・ディストリビューション)・認定試験について Linuxのインストール						
	3・4	基本コマンド1(ディレクトリ/ファイル操作・コマンドパス) 正規表現とパイプ(標準出力・標準エラー出力・grep)						
	5・6	基本的コマンド2(ファイル属性・テキストファイル操作) viエディタの使い方(基本操作)						
	7・8	管理者の仕事(ユーザアカウント登録/削除・グループ登録・パスワード管理)						
	9・10	ユーザ権限とアクセス権(所有者と所有グループ)						
	11・12	ネットワークの設定と管理(IPアドレス)						
	13・14	ネットワークの設定と管理(簡単なセキュリティの設定)						
	15・16	ファイル管理(ファイルシステム)						
	17・18	ファイル管理(マウント)						
	19							
	20							
	21							
	22							
	23							
	24							
	評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)課題・レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		小テスト	○	◎				50%
		課題・レポート		◎		○		40%
		受講状況				◎		10%
	履修上の注意							

科目名	Webプログラミング演習 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	手嶋 隆之		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科、情報システム専攻科、情報工学科 1年						
授業概要	実際にWebサイトの作成し、構造及びデザインの基礎を学習する。体系的にWebサイト作成の技術を学び、Webサイトが作れるようになる						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			jQueryの基本的な文法が使用できる	
		○	○			Webサイトの構築と基本デザインができる	
		○	○			Webサイトが動作する原理を理解し作成できる	
テキスト・教材 参考図書	①本当によくわかるJavaScriptの教科書(SBクリエイティブ) ②HTML&CSSとWebデザインが1冊できちんと身につく本(技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	教材①使用 Chapter9 jQuery 基本的な構造、さまざまな要素の指定、イベント					
	3-4	Chapter9 jQuery ハンバーガーメニュー、プラグインの方法					
	5-6	教材②使用 Chapter1-2 Webサイトとデザインの基本					
	7-8	Chapter4-5 CSSの基本と書き方					
	9-10	Chapter6-7 ページ製作(1カラム、2カラム)					
	11-12	Chapter8-9 グリッドレイアウト、問合せページの作成				オリジナルWebページの案を考える	
	13-14	Chapter10 マルチデバイス対応ページの作成					
	15-18	総合演習 オリジナルWebページの作成				オリジナルWebページの作成	
評価方法	(1)課題作成を数回実施する。(2)授業の中で、確認テストを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	◎				30%
	課題作成		◎	○	○		60%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	プログラミング演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	54時間	担当者	小淵 洋子・川野 啓祐		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	Javaの開発環境とプログラミングの基礎文法を学んだ後、オブジェクト指向の基本的概念であるクラス、メソッド、カプセル化、継承、ポリモーフィズムを中心に学習を進める。 各テーマの理解確認として複数の難易度別課題に取り組むことで、プログラミング力を養う。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				Javaの開発環境を設定できる	
	○	○		○		クラスや継承等のオブジェクト指向に基づくJavaプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	Java入門編 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Java環境設定					
	2	第1章 Java言語に触れる、第2章 変数、算術演算と式、型変換					
	3	第3章 条件分岐と繰り返し、1次元配列					
	4						
	5	第3章 2次元配列、課題演習				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	6						
	7	第4章 メソッドの引数、mainメソッドの引数					
	8						
	9	第4章 メソッドの戻り値、メソッドのオーバーロード					
	10						
	11	第4章 課題演習、オブジェクト指向				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	12						
	13	第5章 クラスとインスタンス、参照					
	14						
	15	第5章 課題演習、コンストラクタ				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	16						
	17	第6章 インスタンスメソッド、クラス変数					
	18						
	19	第7章 課題演習、継承の概念とオーバーライド				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	20						
	21	第7章 コンストラクタ					
	22						
	23	第7章 ポリモーフィズム					
	24						
	25	第7章 課題演習、総復習				授業内容に係る課題演習を実施するので、復習しておくこと	
	26						
27	確認テスト				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(筆記)を1回実施する。(3)課題演習を5回実施する。(4)受講状況以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト	◎	◎		○		20%
	課題演習	◎	◎		○		20%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	一般教養 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	就職筆記試験の要素である英語及び社会に関して基本知識を習得する。毎回多くの練習問題を解くことで、様々な問題に対応できる力をつける。また、前期に実施した国語及び数学の復習を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				英語の基本5文型で書かれた短文の和訳ができる	
	○					就職試験頻出の国内外の都市名、古代～現代の主な出来事を挙げることができる	
	○					就職試験頻出の基本的な経済用語を説明できる	
	○					就職試験頻出の漢字、同音異義語、四字熟語の読み書きができる	
	○	○				長文や図表を用いた数学問題で正しい式を考えることができる	
テキスト・教材 参考図書	就職筆記試験対策問題集(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	英語:短文和訳(1.前置詞句) 社会:日本地理(1-3)					
	2	英語:短文和訳(2. To不定詞) 社会:世界地理(1-3)					
	3	英語:短文和訳(3. Ing形 4. 過去分詞) 社会:日本史(1-3)					
	4	英語:短文和訳(5. 第5文型) 社会:世界史(1-3)					
	5	英語:短文和訳(6. Itを用いた文) 社会:政治経済(1-3)					
	6	英語:短文和訳(7. 関係詞) 社会:政治経済(4-5)					
	7	英語:短文和訳(1-7復習) 社会:基礎知識(現代社会・宗教・芸術、政治経済(復習プリント))				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと	
	8	小テスト(英語(短文和訳)及び社会(政治経済))				授業内容に係るテストを実施するので、復習しておくこと	
	9	小テストのフォローアップ 英語:1. 基本単語、2. 時事英語 国語・数学の復習					
	10	英語:3. 熟語、4. 発音、5. 会話表現 国語・数学の復習					
	11	英語:6. 文法、7. 英文和訳、8. 和文英訳 国語・数学の復習					
	12	英語:長文読解 国語・数学の復習					
	13	模擬問題(text):一般常識、SPI言語分野、SPI非言語分野				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと	
	14	SPI模擬テスト(ASODリル)					
15	総復習						
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高橋 政博		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科 1年						
授業概要	就職採用試験に提出する履歴書が作成できる。 求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。 就職活動の申し込みができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する	
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する	
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する	
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する	
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する	
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる	
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる	
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる	
	11	求職票受付面接練習① 入退室の所作					
	12	求職票受付面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	求職票受付面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	求職票受付面接練習振り返り					
15	企業説明会・入社試験時のマナー						
評価方法	下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	求職票受付面接	○	◎	◎	◎		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ビジネスソフトウェア演習 I B								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	川野 啓祐		
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年								
授業概要	Wordを使用して、ビジネス文書や表現力をアップする機能を使った文書(チラシ等)が作成できる PowerPointを使用して、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる								
授業形式	講義:		演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
		○	○			Wordを使って、30分以内でビジネス文書(社外文書)を作成できる			
		○	○			PowerPointを使って、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる			
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016(FOM出版)								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	第1章 Wordの基礎知識/第2章 文書の新規作成(Word)①							
	2	第2章 文書の新規作成(Word)②							
	3	第3章 グラフィック機能の利用							
	4	第4章 表の作成(Word)/第13章 アプリ間でデータの共有(WordとExcel)							
	5	補足 長文の作成							
	6	Word 練習問題(総復習)					テキストの第1章～第4章を復習しておくこと。		
	7	実技試験(Word)/第10章 PowerPointの基礎知識					6回の練習問題を復習しておくこと。		
	8	第11章 プレゼンテーションの新規作成							
	9	第12章 スライドショーの実行							
	10	第13章 アプリ間でデータの共有(WordとPowerPoint)							
	11	PowerPoint 練習問題(総復習)					テキストの第11章～第13章を復習しておくこと。		
	12	実技試験(PowerPoint)					11回の練習問題を復習しておくこと。		
	13	テーマを決めて、情報収集、プレゼンテーション作成/Wordでストーリーシート作成					テーマを考えておくこと。		
14- 15	PowerPointでプレゼンテーションの資料作成								
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)数回の課題を課す。(3)課題に対してのプレゼンテーションを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	実技試験			◎			50%		
	小テスト			◎			20%		
	宿題・レポート			◎	○		15%		
	受講状況				◎		15%		
履修上の注意	プレゼンテーションには、時間の制約があるので、しっかり守って作業をしましょう								

科目名	システム設計B						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	姫野 マリ		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	システム設計における応用レベルの知識を習得する。前期のシステム設計Aで学習した知識を活用し、演習を通じて要件定義から各種システム設計書を作成することを目指す。 最終課題では、与えられた要件定義書から画面設計書、機能設計書、データベース設計書を作成する。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					与えられたシステム要件を把握した上で、画面設計書を作成できる。	
	○					与えられたシステム要件を把握した上で、機能設計書を作成できる。	
	○					与えられたシステム要件を把握した上で、データベース設計書を作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	オリエンテーション 前期の復習					
	4-6	データモデリング応用演習1					
	7-9	データモデリング応用演習2				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	10-12	データベース実装演習1					
	13-15	データベース実装演習2				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	16-18	機能設計基礎演習1(クラス図作成)				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	19-21	機能設計基礎演習2(シーケンス図作成)				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	22-24	機能設計基礎演習3(機能設計書作成)					
	25-27	機能設計基礎演習3(機能設計書作成)				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。	
	28-30	設計応用演習(要件定義)					
	31-33	設計応用演習(画面設計)					
	34-36	設計応用演習(データベース設計)					
	37-39	設計応用演習(機能設計)					
40-42	設計応用演習(設計レビュー)				提出課題が時間内に完成しない場合、提出期限までに作成しておくこと。		
評価方法	成果物の提出課題を数回実施し、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出		◎				80%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が30回(全45回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	UIデザイン演習B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中西 紘子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	JavaScriptの基本構文を理解し、Webページに組み込むことができる。 jQueryを利用したWebページを作成することができる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				JavaScriptの概要、Webページの組み込み方法が説明できる。	
		○		○		jQueryを利用したWebページの作成ができる。	
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくJavaScript「超」入門(ソフトバンククリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	HTML、CSSの復習、JavaScriptとぼ(Chapter1イントロダクション)					
	2	Chapter2 アウトプットの基本					
	3	Chapter3 Javascriptの文法と基本的な機能1					
	4	Chapter3 Javascriptの文法と基本的な機能2					
	5	Chapter4 インプットとデータの加工1					
	6	復習、確認テスト					
	7	Chapter5 一歩進んだテクニック1					
	8	Chapter5 一歩進んだテクニック2					
	9	Chapter6 jQuery入門1					
	10	Chapter6 jQuery入門2					
	11	制作1					
	12	制作2					
	13	制作3					
	14	制作4					
15	制作の結果発表(ソースコード公開)、まとめ				提出物の期限内に間に合うように作業をすること		
評価方法	(1)確認テストを1回実施する。(2)課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト(1回実施)	◎	◎				10%
	課題提出		◎		○		40%
	作品作成		◎		○		40%
	出席状況・授業態度				◎		10%
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	アプリケーション開発演習B						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	西野直幸・今村美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	前期で学んだサーブレットの基礎にプラスして、データベース、MVCモデルを学び、より実践的で効率のよりプログラム作成を学ぶ。課題として本格的なWebアプリケーションを作成し、3年生の卒業研究につなげていく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		MVCモデルを理解し、ソースコードの組み方、メリットを説明できる。	
		○		○		DBへの挿入・更新・取得をするプログラムを作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるサーブレット&JSP入門(インプレス)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	前期の復習					
	6-10	前期の復習					
	11-15	フィルター				演習課題を提出すること	
	16-20	DAOパターン(講義)					
	21-25	DAOパターン(演習1)				演習課題を提出すること	
	26-30	DAOパターン(演習2)				演習課題を提出すること	
	31	確認テスト				確認テストの勉強を行っておくこと	
	32	総合演習テーマ発表					
	32-35	総合演習(設計作業1)画面設計					
	36-40	総合演習(設計作業2)データモデル設計					
	41-45	総合演習(設計作業3)機能設計					
	46-50	総合演習(設計レビュー)				設計レビューに備えて、制作物を完成させておくこと	
	51-55	総合演習(開発作業1)				スケジュールの遅延分は自宅で制作すること	
	56-60	総合演習(開発作業2)				スケジュールの遅延分は自宅で制作すること	
	61-65	総合演習(中間レビュー)				開発中間レビューに備えて進捗を確認しておくこと	
	66-70	総合演習(開発作業3)				スケジュールの遅延分は自宅で制作すること	
71-75	総合演習(開発作業4)				スケジュールの遅延分は自宅で制作すること		
評価方法	(1)確認テストを1回実施する。(2)課題を数回実施する。(3)総合演習について提出する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト(1回実施)	○	◎				20%
	課題提出		◎		○		20%
	総合演習		◎		○		50%
出席状況・授業態度				◎		10%	
履修上の注意	出席が53回(全75回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	織田 拓郎		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	ビジネスでは個人で働くことはなく、グループでプロジェクトを遂行していく。したがって企画、営業、設計、製造などの工程や職種、業種に関わらずグループディスカッションでのコミュニケーション力、司会進行や議事録に関するスキルは必須である。本科目ではグループディスカッションで必要となるコミュニケーション力と論理思考力を講義と演習で学んでいく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				グループディスカッションの目的と手法を理解し、グループで一つの意思に達することができる。	
		○				グループ内で役割を果たし、議論に貢献することができる。	
		○				論理的に考え、議論の結論と根拠を導き出すことができる。	
		○				アイデア発想法を理解し、発想型グループディスカッションに貢献することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント(授業レジュメ及び演習)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション ビジネスシーンにおけるグループディスカッションとは					
	2	ビジネスシーンでのコミュニケーション ビジネスシーンでの話し方と聴き方					
	3	グループディスカッションの基本 グループディスカッションの種類					
	4	自由討論型のグループディスカッション 演習Ⅰ				討論テーマについて調査をしておくこと	
	5	選択型のグループディスカッション 演習Ⅰ				討論テーマについて調査をしておくこと	
	6	論理思考の基本					
	7	論理的分析手法					
	8	Why型ロジックツリー 演習					
	9	How型ロジックツリー 演習					
	10	自由討論型のグループディスカッション 演習Ⅱ				討論テーマについて調査をしておくこと	
	11	選択型のグループディスカッション 演習Ⅱ				討論テーマについて調査をしておくこと	
	12	問題解決型のグループディスカッション演習				討論テーマについて調査をしておくこと	
	13	アイデア発想法					
	14	アイデア発想法 演習					
	15	発想型のグループディスカッション 演習 まとめ					
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)数回の演習を実施する。(3)出席状況、授業態度を加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習成果		◎				50%
	課題提出		◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		10%
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	就職実務 I B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	西野直幸、今村美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	就職採用試験に提出する履歴書が作成できる。 求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。 就職活動の申し込みができる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾オリジナル) 簡単! 面接練習帳 -ようこそ面接室へ(一ツ橋書店)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~2	前期の振り返り(履歴書作成)					
	3~4	履歴書作成、面接試験の概要、基本的な立ち振る舞い					
	5~6	面接練習1(挨拶、立ち振る舞い)					
	7~8	面接練習2(業界・職種の志望理由)					
	9~10	面接練習3(自己PR)					
	11~ 12	面接練習4(学業で頑張ったこと)					
	13~ 14	職種理解および履歴書作成(志望動機)				提出物の期限に間に合うように作業をすること	
	15~ 16	面接練習5(業界・職種志望動機)					
	17~ 18	面接練習6(業界・職種志望動機)					
	19~ 20	求職票受付面接試験					
	21~ 22	面接振り返り、企業アプローチの流れとマナー					
	23~ 24	企業研究1					
	25~ 26	企業研究2					
27~ 28	企業研究3						
29~ 30	企業研究4				企業研究レポートを作成すること		
評価方法	(1)確認テストを1回実施する。(2)課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	求職票受付面接	○	◎	◎	◎		50%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が20回(全30回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報システム専攻科 2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース 1年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				就職筆記試験の練習問題に対して解答を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7)及びSPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
15	SPI数学分野の小テスト及びSPI国語分野の復習、定期試験対策						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意	2/3以上の出席がない場合は単位を付与しない。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅡB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	姫野、志水、村上、久保山、藤澤(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							